

2016 年度
事業報告書
会計報告書



歯みがきの練習をする小学生（協働プロジェクト カンボジア）

JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。
公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目 次

1. 今年度の歩み	1
2. 海外諸活動	3
2-1 海外派遣	3
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	3
(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー	4
(3) タンザニア 弓野綾ワーカー	5
(4) 短期	7
2-2 奨学金事業	7
2-3 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	13
(1) Taho 診療統計分析能力強化プロジェクト タンザニア	13
(2) SALT プロジェクト カンボジア	14
(3) シロアムプロジェクト ケニア	15
2-4 災害救援復興支援	16
3. 国内諸活動	16
3-1 國際保健人材育成	16
3-2 東日本大震災被災者支援	19
3-3 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	20
3-4 マーケティング	28
4. 運営体制	32
4-1 第 55 回定時社員総会	32
4-2 理事会	32
4-3 委員会	32
4-4 事務局	34
5. 一般会員・社員会員の現状報告	35
6. 2016 年度の主な動き	35
7. 会計報告	38
貸借対照表	38
貸借対照表内訳表	39
正味財産増減計算書	40
正味財産増減計算書内訳表	43
財務諸表に対する注記	46
附属明細書	48
財産目録	49
監査報告書	51
付録 2016 年度出版物に掲載された記事の一部	53

1. 今年度の歩み

<常務理事 大友宣>

2016年度も、会員¹、支援者、ボランティアの皆様のあたたかいご支援、ご協力と祈りの心に支えられ、アジアやアフリカの人々と共に生きることを目指して活動を続けることができました。また、東日本大震災で被災された方々への支援も、皆様のご理解とご協力により、JOCSの海外での経験を活かして引き続き活動を展開することができました。お支えくださいました皆様すべてに心から感謝申し上げます。

すべての人々の健康といのちがまもられる世界を目指して作成した「5ヵ年計画 2013」を実行して、4年が経過しました。本計画を実行し続けると共に、新たな5ヵ年計画を作成するために、2016年度から準備を開始いたしました。活動地の人々と共に生きる私たちの活動をこれからも一層充実させてまいります。変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2016年度の活動の概要を以下に記します。

(1) 海外諸活動

1) ワーカー派遣

2016年度は、3名の長期ワーカーがそれぞれの任地で以下の活動を行った。

バングラデシュでは、岩本直美ワーカー（看護師）が7月から第6期の活動を開始した。ラルシュ・マイメンシンで、施設の運営と組織強化に携わりながら、知的障がいのある人々と共に生きている。山内章子ワーカー（理学療法士）は、2015年度に引き続き、各地で理学療法技術者や現場スタッフの技術教育、またリハビリテーションを必要としている人への理学療法を通して共に生きている。

タンザニアでは、弓野綾ワーカー（医師）の活動が2年目に入った。タボラの聖アンナ・ミッション病院での診療およびタボラ大司教区での診療統計分析能力強化プロジェクトへの協力活動を通して現地の方々と共に生きている。

昨今の国際情勢を鑑み、これまで以上に安全に留意して必要な対策を施しながら派遣事業を行った。

2) 奨学金事業

アジア、アフリカの保健医療従事者育成を目的とした奨学金事業では、新規受給者、継続者を合わせ、インド、インドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニアの57名の研修を支援した。

カンボジア、タンザニア、ウガンダ、では元奨学生のモニタリングを行い、元奨学

¹会員：本報告書の中で特にことわりのない場合は、社員会員および一般会員の皆様を指します。

1. 今年度の歩み

生たちが地域医療に貢献している様子を確認した。

3) 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）（Project “LITTLE” = “Living together with the people”）

協働プロジェクトは、2015 年度に引き続きタンザニアとカンボジアで事業を行い、新たにケニアで事業を開始した。それぞれモニタリングを行いながら、現地団体と協力して活動を行っている。

タンザニアでの診療統計分析能力強化プロジェクトは 5 月に終了時評価を実施し、2017 年 3 月までの延長を決めた。3 月に事務局スタッフが訪問し、最終モニタリングを行った。ワーカー派遣との相乗効果を生み出していることが確認できた。

カンボジアの小中学校での健康教育（SALT プロジェクト）は 3 年目に入った。2017 年 2 月に事務局スタッフが訪問し、モニタリングを行った。

2016 年 4 月から、ケニアでシロアムプロジェクトを開始した。2021 年 3 月までの 5 年間で、シロアムの園において障がいのある子どもに対する療育事業の基礎を確立していく。10 月には事務局スタッフが訪問し、モニタリングを行った。また 11 月から 1 カ月間、山内章子ワーカーがバングラデシュから出張し、現地理学療法士の指導などを行った。

（2）国内諸活動

国際保健医療に関心をもつ方々のために実施している勉強会とフィールドセミナーを 2016 年度も開催し、毎回多くの参加者を得た。また、タンザニアへのスタディツアーワークを実施した。

第 5 期の任期を終えて帰国した岩本直美ワーカーの報告会を 6 月まで開催し、支援者へ活動を伝えるとともに、新入会者を増やす取り組みを行った。この他に活動に理解と賛同を得、新入会者を増やす取り組みとして、11 月に「JOCS のつどい 2016（朗読と音楽のつどい）」を、2017 年 3 月にチャリティ映画会を開催した。

2016 年度も、皆様のご協力を得て、東日本大震災被災地での支援活動を継続した。釜石へ訪問看護チームの派遣、福島では児童養護施設の子どもたちを放射能による健康被害からまもる活動への協力を継続した。

（3）運営体制

第 55 回定時社員総会を 6 月に開催し、決算が承認された。理事会を 8 回開催し、様々な議題に対して真摯な協議を行った。

今年度も、多くのボランティアの皆様が JOCS の活動を支えてくださいました。私たちの活動に共感して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 海外諸活動

ワーカー派遣は3名、協働プロジェクトは3件、奨学金は新規16名を含む総計57名を支援した。各国の治安情勢の悪化のため、活動の一部を延期するなどの支障がでた。

[2-1] 海外派遣

岩本ワーカーは第5期の活動報告会後、第6期の活動開始のためバングラデシュに再赴任した。山内ワーカーと弓野ワーカーは引き続きそれぞれバングラデシュ、タンザニアで活動した。自記式アンケートを山内ワーカーは2016年6月、弓野ワーカーは2017年3月に行い、その回答を理事会で検討した。山内ワーカーの活動に関して、2016年8月に中間レビューを行った。バングラデシュでは2016年7月に大きなテロ事件があり、ワーカーの安全対策を強化している。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー (看護師)

派遣先 : L'Arche Mymensingh (ラルシュ・マイメンシン)

赴任期間 : 2016年7月～2019年7月

活動概要 : 知的障がいのある人々とともに生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営されるように人材育成と組織づくりをしている。

1) 報告会

2016年4月～7月まで、日本で活動報告会を行った。

2) 新しい覚え書きに沿った優先課題の選択

コミュニティ5カ年の覚え書きの達成度を皆で評価し、2017年度優先課題を選んだ。

3) バングラデシュ政府NGO省への登録の検討

政府認可をラルシュ理事会で検討後、NGO省ではなく社会福祉省への登録を行なった。

4) リーダーシップ体制についての再検討

国際担当者および理事要職の異動が予測されるため、コミュニティ全体のリーダーシップ体制について関係者で再検討を始めた。一方アシスタントたちより複数のコーディネーターを選出し、コミュニティリーダー(岩本)の職責の委譲を図った。

5) ラルシュ理事会の強化

2名(イスラム教徒とキリスト教徒)の新理事を迎える、9名の体制とした。役職遂行に困難を来たしていた常務理事と話し合いを重ね、現任期満了後に交代することが決定した。



理事会での岩本ワーカー

2. 海外諸活動

6) コミュニティカウンシル（評議会）の再編と強化、リーダーの養成

コミュニティカウンシルとコアメンバーカウンシル（障がいのあるメンバーの代表者からなる）の改選をおこなった。メンバーたちがカウンシルの役割の重要性を理解し、誠実に新メンバーを選出したことがうかがえた。

7) バングラデシュ国内での資金調達の強化

バングラデシュ国内支援者獲得を図った。地元ロータリークラブなどを中心に、確実に支援者の輪が拡がりつつある。年間および月間の定期寄付者も増えつつある。年間でおよそ 150 万円のご寄付を賜った。マイメンシンは 4 県が合併され行政区が拡大した。県知事県警共に新人事となつたが、新しい良好な関係が生まれつつある。

8) 外国人アシスタントの採用とそのコミュニティ生活開始の支援

2017 年 1 月より国内外支援者獲得のために長期赴任予定であった米国人女性の派遣は、派遣団体の都合により中止となった。

9) ラルシュの家の建築に必要な資金の調達、工事の開始

欧洲と日本よりご寄付を賜り、2016 年 11 月よりラルシュの家の建築を開始した。

10) その他

- ・各コアメンバー（障がいのあるメンバー）の 2016 年度の目標達成度の評価を行い、2017 年度の新目標を設定した。コアメンバーの多くが家族に捨てられたことの深い傷を心に負いながらも、人間としての成熟を深め成長を果たした。
- ・家に暮らすコアメンバーの成長に鑑み、2017 年 2 月よりデイケアプログラムのメンバー全員が成人デイケアプログラム（レインボーチーム）と作業所のメンバーへと移行した。今後の幼児の受け入れについては、今後地元の他団体へその支援をお願いした。
- ・長期、短期の外国人ボランティア（スイス、スウェーデン、フランス、米国など）の受け入れをおこなつた。
- ・ラルシュの理事会および国際担当者などと 3 年に亘り検討を重ねてきたコミュニティの職務および給与規定について、最終案を策定した。

(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー（理学療法士）

派遣先：PCC (Protibondhi Community Centre : 障がい者コミュニティセンター)

赴任期間：2015 年 6 月～2018 年 7 月

活動概要：主に理学療法技術者のトレーニングをしている。

1) PCC (障がい者コミュニティセンター、マイメンシン県)

- ・理学療法外来において、スタッフの技術強化を行つた。
- ・PPC (Primary Physiotherapy Course : 初級理学療法コース) を 8 名のデイケアボランティアに対し行なつた。コースには全 15 回の講義と実習を組み入れた。修了証を JOCS の名前で授与した。



理学療法の施術をする山内ワーカー

- 2) Kailakuri Clinic (カイラクリ・クリニック、タンガイル県)
 - ・2016 年度前半は現地を訪問しトレーニングができたが、後半は訪問できなかった。トレーニング対象のシルピー氏の体調のこともあり、後半は一度のみだがマイメンシンでのトレーニングを行った。
- 3) CPD (Centre for People of Disabilities : 障がい者センター) ディナジプール県 Dhanjuri mission 内)
 - ・現地の情勢を見てきたが、訪問の機会が得られなかつた。またトレーニング対象のリリイ氏とディポック氏をマイメンシンに呼んでトレーニングすることもできなかつた。
 - ・リリイ氏は 2016 年 11 月 1 日付でラム病院という知名度の高い病院への勤務が決まつた。理学療法技術者として、セラピー業務にあたつている。
- 4) KPKS (Kalibari Protibondhi Kolan Shomiti : カリバリ障がい者協会、マイメンシン県郊外)
 - ・KPKS 代表のロフィクル氏の妹へのトレーニングを開始したところだったが、現地治安情勢の悪化により、訪問がままならず中断している。
- 5) 女性クラブ (上記 1) の PCC 内、マイメンシン県)
 - ・女性クラブの販売部門が独立し、『オンクール（「芽生え」の意）』の名前で 2017 年 1 月よりスタートした。ロゴの作成、サインボードや名刺などのアイテムのデザイン、ショールーム改築、販売品の選択・品質管理などのアドバイザーとしてサポートした。
 - ・女性クラブの女性たちのセラピーを定期的に実施した。1 名を助手とすべく学んでもらつたが、セラピーを受けている女性たちから苦情が出たため、他の人材を探している。
 - ・日本の障がい者のリーダーシップトレーニングを行つてゐる団体での研修に参加申し込みをさせるため、女性クラブから 1 名を選抜し、日本語トレーニングを行つてゐる。
- 6) Butahara Mission (ブタハラミッショն、ラッシャヒ県)

育成対象者の配置の見込みがなく、アクセスも困難なため、中間レビュー（2016 年 8 月）にて第 3 期の支援対象から外すこととした。

(3) タンザニア 弓野綾ワーカー (医師)

派遣先 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

St.Ann's Mission Hospital (聖アンナ・ミッショն病院)

赴任期間 : 2015 年 4 月～2018 年 3 月

活動概要 : 病院での診療と現地スタッフ育成、TAHO の診療統計分析とスーパービジョンの支援をしている。

2. 海外諸活動

1) 聖アンナ・ミッション病院での活動

①外来診療

- ・2016年2月より救急病棟が開設されたことに伴い、週3日救急診療を担当した。頻度の高い疾患は、マラリア、肺炎、腸管感染症などであった。また他医師の外来から患者の紹介を受けた場合、紹介状の返信などを通じフィードバックを行った。
- ・2016年2-3月に聖アンナ・ミッション病院で内科慢性疾患治療のニーズ調査を行い、未治療者と治療中断者が多いことを把握した後、4月より週1日慢性疾患外来を開始した。12月までに233名が登録し、治療を継続した。多い疾患は高血圧、糖尿病、慢性心不全などであった。病院全体で主要な慢性疾患の年間受診者数は、1,986名から3,092名へと約1,000名増加した。外来には計5名の他のスタッフの参加を得、長期的に継続できる形の外来を目指している。内科疾患の治療指針のまとめと共有は完了できなかったため、2017年度に引き続き取り組んでいく。
- ・病院のアウトリーチ（医療の過疎地域への巡回診療）が再開されなかつたため、地域での予防活動を行うことはできなかつた。

②病棟診療

- ・月曜から水曜に、救急病棟の入院患者の診療を行つた。また小児・成人病棟の回診に参加し、主に救急から移つた患者の経過の把握と診療の助言を行つた。
- ・週4日、朝の症例検討会に参加し、診療上の助言や心電図の講義などを行つた。

2) Taho での活動

①診療統計分析能力強化プロジェクト（協働プロジェクト）への協力

- ・週2日、TAHO傘下にある10の保健医療施設の診療状況を把握するための診療統計資料作成を支援した。JOCS事務局と連携しつつTAHOが主体となって2015年分と2016年分のデータ収集・入力・分析を行い、2015年と2016年の年次報告書を完成させた。

②スーパービジョンへの協力

- ・10の医療施設をTAHOと共に四半期ごとに巡回視察し、必要な助言を行つた。各々のスーパービジョンのテーマ（栄養指導、病院機能評価など）にそつて招聘された専門家が同行した。スーパービジョンの準備と報告書作成への協力を行つた。

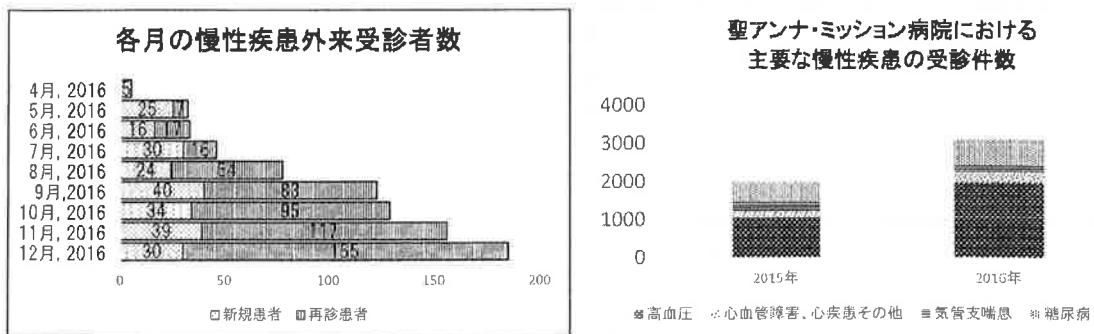
③保健セミナー開催の支援

- ・11月にTAHO傘下の保健医療施設のスタッフを対象として、産褥期の母子ケア向上のためのセミナーを2泊3日で開催した。そのための準備と報告書作成を支援した。
- ・セミナーの前後で参加者に筆記試験を行つたところ、平均で10点（セミナー前65.9



慢性疾患外来での健康教室で
講義をする弓野ワーカー

点→後 76.3 点) 得点が伸びており、セミナーによる学習効果が確認できた。



(4) 短期

山内ワーカーを 1 カ月、ケニア協働プロジェクト「シロアムプロジェクト」に派遣し、理学療法士の指導などを行った。

【2-2】 奨学金事業

2016 年度に新規に奨学生となった 16 名を含む 57 名が支援対象であった。インドの奨学生が 2016 年度中に研修を終えたため、2016 年度末時点では支援国は 5 カ国となっており、新規の国はなかった。

カンボジア、ウガンダおよびタンザニアで元奨学生のモニタリングを行い、研修後の働きなどを確認した。インドネシア、ネパールは協力団体の都合や治安の問題などでモニタリングの為の渡航を延期した。

(1) インド

長年の協力団体であるクリスチャンフェローシップ病院のスタッフで 2015 年度から継続支援してきた 2 名が 2016 年度に研修を終了した(終了報告書提出待ち)。クリスチャンフェローシップ病院に対しては、新規奨学生の応募勧奨を行ったが、2016 年度の申請はなかった。

(2) インドネシア

離島や山間部などの医療過疎地域で、医学や看護学、栄養学の研修を希望する奨学生を支援している。また、政府から病院としての認定を受けるためには、病院に会計士資格保持者を配置することが必要なため、その研修の支援も行っている。加えて、政府の方針により、看護学校で講師として教えるには、看護学修士の単位取得が求められるようになったため、学位を取得して看護学校で継続して勤務することを希望する人に対する支援も行っている。

2. 海外諸活動

(3) カンボジア

奨学生事業モニタリング調査として、2017年2月にカンボジア北東部ラタナキリ州在住の元奨学生（医師）を訪問した。医学部卒業後に出身地でクリニック兼薬局を開設し、「貧しさのゆえに医療を受けられない人のために」という初心を貫いていることを確認した。

(4) ネパール

既に基礎的な分野での研修を終え、看護・助産や臨床検査、理学療法の分野で准看護・助産師または助手として働いている人たちに対し、レベルアップまたは専門的な内容の研修を受けるための支援を行っている。上記インドネシア同様、政府の方針により、看護学校で講師として教えるには看護学修士の取得が求められるようになっており、その学位取得を希望する人に対する支援も行っている。

2015年に発生した大地震で学校の校舎も影響を受けたため、研修の開始時期が遅れたり、急な進学先の変更を余儀なくされたりする奨学生もいた。

(5) バングラデシュ

テゼのブラザーの推薦を受けて、2014年度に採用した奨学生1名がラッシャヒ県のChristian Mission Hospitalで看護コースを修了した（終了報告書提出待ち）。また同じく2014年度に採用したPIME Sisters所属の看護を学ぶ奨学生1名が就学後に体調を崩し、帰省した後に音信不通となつたために、奨学生の支給を中断せざるを得なくなつた。

2016年度には新規奨学生として、ディナジプール県St. Vincent Hospitalに看護師として勤務するシスター2名を採用した。うち1名は看護師長候補である。

(6) ウガンダ

UPMB（ウガンダ・プロテスタント医療連盟）傘下の保健医療施設に所属する17名の奨学生を継続支援し、うち9名が2016年度内に研修を終了した（いずれも終了報告書提出待ち）。一方で、2015年度に採用となったものの必要書類が提出されず、契約にいたらなかつた1名の承認を取り消した他、自己都合による研修中断、離職のため、3名を支給停止とした。加えて、再三の督促にも中間報告書が提出されなかつた3名についても支給停止とした。

2016年度の新規奨学生として、UPMB傘下の保健医療従事者4名、エイズ感染者支援を行うReach Out Mbuyaのスタッフ1名を採用した。

また2017年3月に現地調査を行い、UPMBおよびReach Out Mbuyaの奨学生事業の実施管理体制やニーズを確認するとともに、研修終了後の奨学生の活動状況を調査した。

(7) タンザニア

基本的な短期研修を受けただけで資格を持たず、助手として働いているスタッフが多い。そのため、看護・助産、臨床検査、医学などの分野で資格を取得することを希望する人たちへの支援を行っている。

TAHO（タボラ大司教区）とその傘下にある保健医療施設では、奨学生が JOCS に報告書を送付するタイミングで TAHO、保健医療施設責任者、奨学生の三者による面談を行い、研修の進捗状況や研修後のビジョンについて話し合う機会を設けている。

スタディツアーでタンザニアを訪問した際、元奨学生がツアーの参加者に自分の働く病棟や仕事の内容について自信を持って説明する様子が見られた。JOCS の奨学金がタボラの保健医療人材を増やすためにいかに重要な役割を果たしているか、参加者に説明してくれる場面もあり、参加者も JOCS の奨学金事業の意義を感じてくれた様子であった。

略語一覧

*職務、職種は奨学金申請時点のもの

*GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)

*ICAHS : Indonesia Christian Association for Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

*HDCS : Human Development and Community Services (ネパールのキリスト教系 NGO)

*LMN : Leprosy Mission Nepal (ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系国際 NGO)

*UMN : United Mission to Nepal (ネパール合同ミッション。ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO)

*UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテstanto医療連盟)

*TAHO : Tabora Archdiocesan Health Office (タボラ大司教区保健事務所)

インド

職務・職種	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
看護師	28	女	Christian Fellowship Hospital	看護学修士	2014年8月～2016年8月

インドネシア

事務	24	女	GKST Sinar Kasih Hospital	栄養学	2013年9月～2016年12月
会計スタッフ	24	女	GKST Sinar Kasih Hospital	会計	2016年6月～2020年5月
学生	26	女	ICHAS Bethesda Hospital	医学	2013年1月～2017年12月
助産師長	26	女	ICAHS Permata Clinic	看護学	2015年9月～2017年9月
看護師長	43	女	ICAHS UKI Hospital	看護学修士	2015年7月～2017年7月

ネパール

村落保健員	35	男	HDCS Chaurjahari Hospital	公衆衛生	2013年7月～2016年7月
検査技師助手	39	男	HDCS Chaurjahari Hospital	臨床検査	2013年7月～2016年7月
准看護・助産師	33	女	HDCS Chaurjahari Hospital	看護学	2014年9月～2017年9月
准看護・助産師	30	女	HDCS Chaurjahari Hospital	看護学	2014年10月～2017年10月
診療放射線技師助手	43	男	HDCS Chaurjahari Hospital	放射線診断学	2016年10月～2019年10月
事務・会計担当	28	男	HDCS Lamjung District Community Hospital	ヘルスケアマネジメント修士	2016年2月～2018年1月
看護講師助手	38	女	Lalitpur Nursing Campus	看護学修士	2014年9月～2016年9月
理学療法士助手	29	女	The LMN Anandaban Hospital	理学療法	2016年8月～2021年2月
看護講師助手	39	女	Tansen Nursing School	看護学	2014年1月～2017年1月
上級保健衛生士	47	男	United Mission Hospital, Tansen	公衆衛生	2014年10月～2017年10月
薬剤師助手	41	男	United Mission Hospital, Tansen	薬学	2013年9月～2016年9月
検査技師	47	男	United Mission Hospital, Tansen	医用画像工学	2012年9月～2016年8月
看護助産師助手	50	女	United Mission Hospital, Tansen	看護学	2013年11月～2016年11月
准看護・助産師	45	女	United Mission Hospital, Tansen	看護学	2014年10月～2017年10月

バングラデシュ

看護師	33	女	St.Vincent Hospital	看護学	2016年7月～2018年7月
看護師	31	女	St.Vincent Hospital	看護学	2016年7月～2018年7月
学生	22	女	なし	看護学	2014年2月～2017年2月

2016年度奨学生一覧

2. 海外諸活動

ウガンダ

職務・職種	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
抗レトロウイルス療法責任者	32	女	Reach Out Mbuya HIV/AIDS Initiative	公衆衛生	2015年8月～2017年11月
看護助手	25	女	UPMB Amuca SDA Health Centre III	助産学	2014年10月～2017年4月
准助産師	25	女	UPMB Amuca SDA Health Centre III	助産学	2016年4月～2017年10月
准看護師	31	男	UPMB Azur Christian Health Centre IV	看護学	2015年5月～2016年11月
看護師	25	男	UPMB Bwindi Community Hospital	臨床医学・公衆衛生	2013年8月～2016年8月
准看護師	27	女	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2015年5月～2016年11月
准助産師	24	女	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2015年5月～2016年11月
准看護師	28	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2016年5月～2017年11月
検査助手	31	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	臨床検査	2015年8月～2018年7月
准看護師	24	男	UPMB Goli Health Centre/Nobbi Diocese	看護学	2016年5月～2017年11月
准看護師	28	男	UPMB Kanamba Health Centre III/South Rwenzori Diocese	看護学	2016年5月～2017年11月
ヘルスセンター責任者	31	男	UPMB Kei Health Centre, Here is life	臨床医学・公衆衛生	2012年9月～2018年6月
看護師	42	女	UPMB Kiwoko Hospital	看護学	2013年9月～2016年9月
暗室助手	28	男	UPMB Kumi Hospital	臨床医学・公衆衛生	2014年1月～2017年2月
看護助手	30	男	UPMB Kumi Hospital	看護学	2014年11月～2017年5月
看護師	27	男	UPMB Mukono C.O.U Hospital	看護学	2015年5月～2016年11月
准看護師	33	女	UPMB Ruharo Mission Hospital	助産学	2015年5月～2016年11月
薬剤師	30	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	薬学	2014年8月～2018年2月
准看護師	38	女	UPMB South Rwenzori Diocese	看護学	2014年11月～2016年11月
准看護師	28	男	UPMB South Rwenzoi Diocese	看護学	2015年5月～2017年5月
准看護師	34	男	UPMB South Rwenzori Diocese	臨床医学・公衆衛生	2015年5月～2018年5月
准看護師	26	女	UPMB West Ankole Diocese	助産学	2015年5月～2016年11月

タンザニア

医療助手	22	男	TAHO Igoko Dispensary	医学	2014年9月～2016年9月
医療助手	21	男	TAHO Igoko Dispensary	臨床検査	2015年9月～2017年9月
医療助手	22	男	TAHO Kaliua Health Center	看護学	2015年11月～2018年11月

職務・職種	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
看護師	48	女	TAHO Ndala Hospital	看護学	2014年8月～2017年9月
医療助手	28	女	TAHO Ndala Hospital	放射線診断学	2015年9月～2018年9月
医師補	32	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2012年8月～2017年8月
看護助手	30	女	TAHO St. Ann's Mission Hospital	看護・助産学	2014年4月～2016年4月
看護助手	27	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	看護学	2014年10月～2016年10月
受付係	23	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	放射線診断学	2014年10月～2017年10月
看護助手	27	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	薬学	2015年10月～2017年9月
医師補	30	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2014年10月～2019年10月
清掃員	20	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2016年6月～2018年5月

[2-3] 協働プロジェクト(プロジェクト・りとる) (Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

タンザニアの協働プロジェクトは5月の終了時評価を受け、2017年3月まで延期した。カンボジアでは順調に保健教育を継続実施している。ケニアでは4月からシロアムプロジェクトを新たに開始した。

(1) Taho 診療統計分析能力強化プロジェクト

対象国	: タンザニア
対象地域	: タボラ州 タボラ大司教区
プロジェクト期間	: 2013年9月～2016年8月 2016年9月～2017年3月31日（延長期間）
協力団体	: Taho (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
受益者	: Taho とその傘下の10の保健医療施設（病院や診療所など）
プロジェクト目標	: タボラ大司教区保健事務所が、傘下の10の保健医療施設の医療データを収集、分析、フィードバックできるようになる。

進捗状況 :

2013年9月から Taho と実施してきた診療統計分析能力強化プロジェクトの終了を2016年8月末に控え、5月に終了時評価を行った。Taho が作成した年次報告書や Taho 傘下の各保健医療施設から出されたレポートなどの成果物を確認し、Fr.Alex と弓野綾ワーカーへのインタビューを行った。また、Taho 傘下のキパラパラ診療所とンダラ病院を訪問し、Fr.Alex と共に診療統計の担当者などに対してインタビューを行った。

プロジェクト期間中、タンザニア政府が政策を転換し、複雑で詳細な診療統計をタンザニア国内にある全ての保健医療施設から収集するようになったため、本プロジェクトで収集するデータの種類および Taho や Taho 傘下の保健医療施設が使用するフォームやコンピューターのプログラムの大幅な見直しと改訂が必要になった。このような外部要因の影響を大きく受けたにも関わらず、全体的に見て、Taho はデータの回収、コンピューターのプログラムへのデータ入力、データ分析と報告書の政策、内部および外部へのフィードバックができるようになった。報告書の作成に必要な作業の全てが既に JOCS から Taho に移管されており、そのほとんどを Taho が独力でできるようになっている。

フィードバックにおいて、Taho では作成した報告書を Taho 傘下の保健医療施設に配布するだけでなく、保健医療の分野に関わる政府機関や支援団体などにも配布を行い、保健医療施設改善のためのファンドレイジングにつなげていることが確認できた。また、報告書を受け取った傘下の保健医療施設でもそのデータを患者への啓発に活用したり、地方政府に保健サービスの改善を求める際の資料として活用していることが確認できた。終了時評価を実施した結果、Taho が傘下の10の保健医療施設のデータを収集、分析し、その結果を報告書にまとめて各保健医療施設と共有できていることが確認できた。

しかしながら、報告書作成に係る技術面において、課題も依然として見受けられた。そのため、プロジェクトの成果をより確実なものにするため、プロジェクト期間を 7 カ月延長した。

TAHO では、2016 年 6 月、9 月、2017 年 1 月、3 月に栄養指導や病院機能評価をテーマにスーパービジョンを行った。2016 年 11 月には産褥期の母子ケアの向上をテーマに、外部講師を招いてセミナーを実施した。各保健医療施設から担当者が出席し、3 日間の研修を受けた。

(2) SALT (Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey=次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国	: カンボジア
活動地域	: バッタンバン州
プロジェクト期間	: 2014 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日（第 1 年次は試行期間）
協力団体	: バッタンバン司教区ヘルスセンター
受益者	: バッタンバン州内の 16 小学校および 8 中学校の高学年生
プロジェクト目標	: 小中学校への巡回指導による保健教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

進捗状況：

試行期間（2014 年 10 月～2015 年 9 月）で実施した小・中学校併せて 6 校での活動実績を踏まえ、最終的にプロジェクトの受益者をバッタンバン州内の 16 小学校および 8 中学校の高学年を対象とすることとした。保健教育の導入にあたり、各学校を訪問し、校長先生から生徒数や授業スケジュールを確認し、子どもたちが抱えている健康にかかる問題を聴き取り、授業の導入のあり方を相談しながら進めてきた。また試行期間中の経験を踏まえ、カリキュラムの改訂も行った。

プロジェクト第 2 年次（2015 年 10 月～2016 年 9 月）は、16 校で、保健教育を実施した他、保健教育のインパクトを測るために、受益対象地域の 12 名の生徒を家庭訪問し、インタビューを行った。また保健教育教本を作成した。校長や教員の意向により、学校の保健教育・思春期教育に取り組む姿勢に大きな違いが生じており、学校の関与が薄く、生徒の自主参加に任せる学校もあれば、校長自らが推進役となって保健教育を展開している学校もあった。また、タイとの国境地帯のポイペトで活動している修道会のシスターが、自分たちの活動地域でもぜひ保健教育をやってみたいので教えてほしいとのリクエストがあった。そのため、スタッフがポイペトを訪問し、教材一式を進呈するとともに、教育内容を教えた。

2017 年 2 月の現地調査でこれらの状況の詳細を把握し、成果の発現状況をモニタリングした。また第 2 年次の予算執行率が 56% にとどまっていることから、第 3 年次の活動計画および事業管理の進め方について確認した。

(3) シロアムプロジェクト

対象国	: ケニア
活動地域	: キアンブ地方行政区（County）ンデンデル地区
プロジェクト期間	: 2016年4月1日～2021年3月31日（5年間）
協力団体	: コイノニアミニストリー シロアムの園
受益者	: シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい（重複障がいが多い）のある子どもおよびその家族
プロジェクト目標	: シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

進捗状況：

キアンブ地方行政区ンデンデル地区の一軒家を改築した療育施設を活動拠点として、障がいのある子どもたちやその家族をありのままに受け入れ、包括的、全人的なケアを行うことを目指すシロアムの園との協働プロジェクトを2016年4月から開始した。

2016年10月のモニタリング時点では、50名以上の子どもたちが登録し、うち約30名が定期的（週2、3回）にセラピーを受けている。利用希望者があとを絶たないが、施設・人員のキャパシティを踏まえ、新規登録を控える状況が続いている。

組織運営面では、上半期にスタッフ数名の異動があったが、現在はスタッフ数10名で落ち着き、セラピーを行う体制が整った。中核となるスタッフ（教師、作業療法士、理学療法士、ソーシャルワーカー他）の育成が続けられた。スタッフは毎朝のディボーション（聖書を読み祈ること）とミーティングで、①当日セラピーに参加する子どもの顔ぶれ、②各々に対するセラピーの内容、③配車スケジュールなどを確認し、祈りを持って一日の活動を開始する。

毎月曜日はグループセラピーで、学期毎にグループセラピーの必要性が高いと判断される子どもを決め、固定メンバーで活動が行われた。プログラムは①朝礼（「始まりの会」）、②クラス活動、③外遊び、④スナックタイムで構成され、最初の「始まりの会」は、母親も参加し、全員一緒に「祈ること」を中心に、身体を動かしながら歌う。続くクラス活動は、イーグルクラス（軽度障がい）とダヴクラス（重度心身障がい）に分かれて室内外の療育訓練（摂食訓練も含む）を行う。グループセラピーを希望する親が多いが、施設や人員体制の制約があり、現時点では両クラス合わせて10名が限界となっている。

火～金曜日の療育活動には、平均12、13人が参加し、全員での朝礼（始まりの会）に続き、医学面のケア、理学・作業療法のほか、絵本よみ、お絵かき、運動など、一人ひとりにあわせた学習や生活技能を養う活動が行われ、インターナンやボランティアも加わり、一人ひとりの体や心の状態を丁寧に観察し、言葉や感情表現、身体のバランスや運動機能など日々の変化をスタッフ全員で共有しながら、活動が進められた。

またバングラデシュで活動中の山内章子ワーカー（理学療法士）が11月上旬から約1

3. 国内諸活動

ヵ月間来訪し、理学療法の改善に向けた活動を行った。セラピーにやってくる子どもたちへの理学療法のほか、新たに着任した理学療法士に対する技術指導や、療育クラスの教師にも一人ひとりにあった理学療法の方法を実習指導し、治療の意義や目的を説明した。

[2-4]災害救援復興支援

海外での災害発生による支援要請がなかったため、2016年度は実施しなかった。

3. 国内諸活動

国際保健人材育成に関わる活動ではスタディツアーを実施し、将来的に海外で保健医療に従事したい人材を効果的に育成できた。東日本大震災被災者支援は岩手県と福島県で継続実施した。国内では他にも JOCS のつどい、岩本ワーカー報告会、映画会、被災地訪問などを行い、マーケティング活動として各種募金活動、広報活動に力を入れた。

[3-1] 国際保健人材育成

2016年度の国際保健医療勉強会は4回実施し、各回ともキャリア相談の機会を設けた。横浜寿地区のフィールドセミナーは4名の参加を得て実施した。タンザニアのスタディツアーを11名の参加を得て実施した。これらの諸活動では将来JOCSでワーカーになることを希望する参加者を特に募るようにした。

(1) 国際保健医療勉強会

将来国際保健医療協力活動に携わることを希望する人を対象に、国際保健医療勉強会をJOCS東京事務局にて4回開催した。

勉強会終了後には、事前申し込みをした希望者に対し、講師がグループによるキャリア相談を行った。計画していた森田事務局長との個別キャリア相談会は、時間の都合で実施できなかった。

第1回

日 時：2016年6月4日（土）15:00～17:00

参加者：合計1名（女性1名）

【養護教諭1名】

題 名：「バングラデシュでの学校保健教育プロジェクト報告」

講 師：高橋淳子（JOCS東京事務局スタッフ）

内 容：2010年から2016年までJOCSがバングラデシュでBDPと取り組んだ学校保健教

育プロジェクトについて、報告を行った。教員向けトレーニングや子どもの身体測定、教本の作成など、現地と協力して行ったプロジェクトについて現地の写真や生徒、保護者、教員へのインタビュー結果などを取り入れながら説明を行った。また、日本にいて現地と協働する難しさなど、プロジェクトを通じて得られた学びについても説明した。

第2回

日 時：2016年10月29日（土）15:00～17:00

参加者：合計7名（女性6名、男性1名）

【看護師3名 主婦2名 医学部学生1名 NGO職員1名】

題 名：「何を、如何に（なにを、いかに）バングラデシュでのコミュニティヘルスプロジェクトへの関わりを中心にー」

講 師：宮川眞一元バングラデシュ派遣ワーカー（医師）

内 容：講師が岩村昇元ワーカーとの出会いから医師を志したこと、学生時代にバングラデシュを訪問した際の話など、ワーカーになるまでのキャリアに関する話から、バングラデシュ、チャンドラゴーナの現状や実際にワーカーとなった後のバングラデシュでの活動について、具体的なエピソードや写真を多く用いながら報告があった。また、ミレニアム開発目標（MDGs）や持続可能な開発目標（SDGs）など国際開発の潮流とその中の国際保健医療分野の指標についても統計やグラフを用いて説明があった。参加者からはイスラム教の国であるバングラデシュにおいてキリスト教病院が地域の人にどう受け入れられているか、バングラデシュのハンセン病の実状などについて質問が出された。

第3回

日 時：2016年11月18日（金）18:30～20:30

参加者：合計5名（女性4名、男性1名）

【看護師2名 学生1名 団体職員1名 無職1名】

題 名：「母子保健：国際協力の方法と評価」

講 師：倉辻忠俊 元タンザニア派遣シニアワーカー（医師）

内 容：ネパールやタンザニアでの事例を交えながら、母子保健について国際機関による定義や統計、現地の写真などを用いて説明が行われた。また、参加者は母乳と人工乳の場合の感染症、黄疸、低体重のリスクとリスク比、オッズとオッズ比を実際に計算して出し、リスク比とオッズ比の違いや考え方について学ぶことができた。

参加者からは、医療職以外で国際保健分野に関わろうと思った時に、どの程度医療に関する知識が必要なのか、母子保健における父親の存在がどうとらえられているのかなどについて質問が出された。

3. 国内諸活動

第4回

日 時：2017年1月27日（金）18：30～20：30

参加者：合計8名（女性5名、男性3名）

【助産師3名 理学療法士2名 看護師1名 団体職員1名 NPO職員1名】

題 名：「国際協力とプロジェクトマネジメント」

講 師：森田隆（JOCS事務局長）

内 容：JOCSの基本方針、海外事業および国内諸活動について説明を行った。

続けて、支援のステージ、技術移転とサービスデリバリーの違い、プロジェクトの概念とそのサイクルなどについて、事例を交えながら説明が行われた。

質疑応答では、JOCSが助成金を受けずに活動している理由やワーカーの派遣先の選定、プロジェクトやワーカーの活動を評価する際の方法、プロジェクト実施中に想定外のことが起きた場合の目標設定の修正の有無などについて質問が出された。

（2）国際保健医療協力フィールドセミナー

JOCSワーカーを希望する人に対し、国内をフィールドとして、人々とともに生きる姿勢について学ぶ機会を提供することを目的として国際保健医療協力フィールドセミナーを実施した。なお、国際保健医療人材の育成というフィールドセミナーの趣旨に立ち返り、2016年度は対象者を保健医療従事者に絞った。

日 程：2016年12月29日（木）～30日（金）

場 所：横浜市中区寿地区

テマ：人々とともに生きる姿勢を学ぶ2日間

参加者：合計4名（女性4名）

【医学部学生1名 学生1名 団体職員1名 養護教諭1名】

プログラム概要：

- 1) 寿地区の概要：なか伝道所元牧師・カラバオの会元代表 渡辺英俊氏の講話
- 2) 日雇い労働者の暮らしの変化・現状：寿日雇労働組合 近藤昇氏の講話と街歩き
- 3) 寿地区における医療ニーズと支援活動：寿医療班森英夫看護師・沓澤則子看護師の講話
- 4) 夜回り：関内駅周辺地区巡回、54名（含女性1名）に声かけ・スープなど配布
- 5) 医療班の活動：医療、作業療法を学ぶ2名が医療相談に参加
- 6) 炊き出し準備・配食：寿地区住民や他のボランティアと作業
- 7) 薬物依存勉強会（越冬闘争実行委員会主催の勉強会に合流）：横浜ダルク代表

者による講話

8) JOCS の活動紹介と学びの分かち合い：事務局スタッフによる説明

成 果：参加者のアンケートや感想文から、①草の根の活動に関わる姿勢を学べたこと（支援する側、される側の関係ではなく、ともに考え、ともに取り組む姿勢）、②医療相談、声かけなどの実践機会を得たこと、③自身の今後の方向性について示唆を得られたことがうかがえた。参加者の 1 名は寿地区を知ることを目的としていたが、それ以外の 3 名は海外での活動を念頭に、弱い立場におかれたり人々に対する支援の見聞を深める明確な目的を持っていました。全参加者とも、知り、理解し、体験することに熱心で、いずれのプログラムでも質問や意見が出されたほか、食事や移動などの間も学び合い、分かち合う様子が見られた。参加者の資質や動機の高さによるところも大きいが、総じて「人々とともに生きる姿勢」について学ぶ目的は十分に達成できた。

(3) スタディツアーア

将来的に JOCS のワーカーをはじめ、国際保健医療の分野で働くことを希望する人に対し、国際保健医療協力活動の現場を訪ね、学び、体験する機会を提供することを目的としてスタディツアーを実施した。

日 時：9月 10 日（土）～18 日（日）

訪問場所：タンザニア・タボラ州 タボラ大司教区

テーマ：タボラ州の病院で保健医療事情を学ぶ旅：訪ねて・学んで・ちょこっと体験

参加者：参加者：11名

【看護師 3 名、大学生 3 名（うち看護医学部 2 名）、医師 1 名、会社員 1 名、教員（助産）1名、助産師 1 名、薬剤師 1 名】

内 容：将来、国際保健医療協力の分野で働くことを希望する保健医療従事者や学生を対象に、タンザニア・タボラ州へのスタディツアーを実施した。現地では、弓野綾ワーカーが活動する聖アンナ・ミッション病院を訪問し、視察や活動体験を行った。加えて、州立病院の視察、協力団体であるタボラ大司教区保健事務所傘下のイゴコ診療所の視察や住民との意見交換なども行った。ツアーワーの最終日には JOCS の元奨学生や聖アンナ・ミッション病院スタッフとの交流会も実施した。

ツアーワーを通じて参加者の多くが国際保健医療協力分野への興味・関心を高め、この分野で働きたいという希望を強めることができた。

[3-2] 東日本大震災被災者支援

東日本大震災から 6 年が経過した。JOCS では震災発生後から地元団体と協力し、被災者

3. 国内諸活動

支援を行ってきた。2016年度は、岩手県と福島県で支援活動を継続した。活動には、2015年度までにいただいた東日本大震災被災者支援指定寄付を充てた。

(1) 岩手県釜石市（協力先：特定非営利活動法人カリタス釜石）

看護チームを派遣し、カリタス釜石が実施する見守り活動やお茶っこサロン（仮設住宅集会所などで開かれている被災者同士の交流の場）への協力や訪問ケア活動（傾聴や健康相談など）を行った。

2016年度は派遣チームの規模を縮小し、訪問回数を4回から5回に増やした。5月、6月、9月、11月、2月に約1週間ずつ活動を実施し、のべ17人が活動に参加した。

9月の訪問では、仮設住宅や復興住宅で回想法の講演を行い、釜石市看護協会との協力の下、看護師や保健師、介護職を対象にした回想法の研修会も実施した。

(2) 福島県内児童養護施設（協力先：特定非営利活動法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会（略称：ICA福子））

ICA福子は、福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うために活動している。JOCSは、個人被ばく線量測定サービス（クイクセルバッヂ）着用を支援した。除染と自然減衰により空間放射線量は減少してきているが、福島には依然放射線量が高い地域がある。福島市の福島愛育園で、外部被ばく量を把握し記録するため、入所している子どもおよび職員のクイクセルバッヂの着用を支援した。幼児は着用が困難であるため、子どもと一緒に生活をする職員が着用することで、被ばく量を把握している。

(3) 被災者支援会計報告

2016年度末までに使用した金額の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

活動地	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	合計
宮城県仙台市	877,760	960,600	936,000	0	0	0	2,774,360
岩手県釜石市	1,588,740	1,900,595	1,854,956	2,220,143	1,543,970	727,500	9,835,904
福島県いわき市	55,290	945,745	449,570	705,440	0	0	2,156,045
福島県内児童養護施設	987,000	2,554,614	810,370	1,240,503	1,321,410	447,848	7,361,745
その他	80,749	277,071	0	0	0	0	357,820
合計	3,589,539	6,638,625	4,050,896	4,166,086	2,865,380	1,175,348	22,485,874

2015年度までにいただいた東日本大震災被災者支援指定寄付は23,264,147円である。残額778,273円は、2017年度の活動に使用する。

[3-3]国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な環境におかれた人々の状況の周知、および国際協力活動に関する支援および協働を育む機会の提供として、以下の活動を行った。

(1) 使用済み切手運動

事務局で切手を整理するボランティア募集の広報に努めたところ、新規参加が 3 名、復帰が 1 名となり、4 名増加した。その他に、学校生徒のボランティア体験があった。

使用済み切手寄付の新規参加に関しては、学校、企業、地域グループなどの団体が 1,080 件、個人が 1,436 件あり、運動の広がりが認められた。

使用済み切手の換金総額は前年度に比べ減少した。理由は、切手業者との年間契約を廃し、個人コレクターを中心に換金を行ったことによる。これまでの切手寄付量に対する、業者の換金希望の注文が多過ぎて、需給バランスが大きく崩れていた点を是正し、多くの個人コレクターの発送待ち日数を短くすることを目的にした。

- ・広報チラシ作成

事務局移転に伴い、使用済み切手運動のチラシを刷新した。切手の切り方などの注意事項に加え、使用済み切手がどのように換金され、支援につながっているのかをイラストで説明した。新規会員や希望者に配布して周知を行った。

- ・各地のスタンプショウへの出展

スタンプショウ 2016 2016 年 4 月 29 日～5 月 1 日(都立産業貿易センター台東館)

スタンプショウヒロシマ 2016 年 6 月 4 日～5 日(広島県立広島産業会館)

高知スタンプショウ 2016 年 10 月 15 日～16 日(イオンモール高知)

- ・キリスト教会への周知

外国コイン・紙幣収集のチラシを、日本国内の教会向け DM サービスを用いて、約 8,000 教会に配布した。当初予定していた書き損じハガキキャンペーンは、他の類似団体が先駆けて実施していたため次年度に実施することにした。

- ・着払いキャンペーン

2016 年 4 月 1 日～9 月 30 日の半年間、送付合計が 5 キログラム以上の使用済み切手、外国コイン・紙幣、書き損じハガキをゆうパックで寄付していただいた場合に限り、送料を JOCS が負担した。

キャンペーン期間中に着払いによって受託した合計重量は、およそ 160 キロで総換金額は約 140 万円に上った。

(2) ワーカー活動報告会

バングラデシュのラルシュ・マイメンシンでの第 5 期活動を終えて帰国した岩本直美ワーカーの活動報告会を、4 月 3 日から 7 月 3 日まで計 45 回、全国各地で開催した。岩本ワーカーの活動の成果として、ラルシュ・マイメンシンで暮らすメンバーの成長と、コミュニティが地域の人々の理解を得て支えられるようになったことを報告した。主な

3. 国内諸活動

訪問先は学校、教会、保健医療施設、市民団体などであった。

(3) 地区 JOCS 活動支援

仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・播州・四国高知

2016 年度中に行われた地区 JOCS の主な活動および参加者数は、以下のとおり。

・仙台 JOCS

毎月第 2 土曜日 使用済み切手整理作業 「きってきっぺ」

(仙台市市民活動サポートセンター)

10 月 10 日 せんだい地球フェスタに出展 (仙台国際センター展示棟) ·

・足利 JOCS

4 月 24 日 岩本直美ワーカー報告会 (生涯学習センター) 15 名

12 月 10 日 足利市民クリスマス (足利市民プラザ小ホール) 150 名

・町田 JOCS

毎月第 3 水曜日 使用済み切手整理作業

(メディカルホームグラニー玉川学園・町田)

12 月 21 日 クリスマス茶話会 (ゴスペルカフェ玉川学園前) 8 名

・京都 JOCS

4 月 2 日 第 12 回京都 JOCS チャリティーウォーカソン

(京都鴨川河川敷) 48 名

6 月 25 日 岩本直美ワーカー報告会 (京都府国際センター) 27 名

7 月 30 日 第 38 回京都 JOCS チャリティーコンサート

(京都府民ホール アルティ) 276 名

・大阪 JOCS

6 月 4 日 大阪 JOCS カフェ (大阪聖パウロ教会)

(ゲスト : 岩本直美ワーカー) 24 名

10 月 29 日 大阪 JOCS カフェ (大阪聖パウロ教会)

(ゲスト : 是枝律子氏) 24 名

・神戸 JOCS

6 月 18 日 岩本直美ワーカー報告会 (神戸栄光教会) 36 名

11 月 12 日 榎戸健次郎元ネパール派遣ワーカー講演会

(神戸東部教会) 28 名

・芦屋 JOCS

6 月 26 日 岩本直美ワーカー報告会 (カトリック芦屋教会) 225 名

・四国高知 JOCS

11 月 13 日 榎戸健次郎元ネパール派遣ワーカー講演会 (高知教会) 43 名

(4) 関西バザー委員会

毎年恒例の関西 JOCS バザーは 22 回目を迎える。2016 年 5 月 14 日（土）に大阪聖パウロ教会を借用して開催した。2016 年度も関西地区活動委員会の加輪上敏彦委員を委員長に、2015 年度同様のべ 100 名以上のボランティアの方々の協力のおかげで、約 350 名の入場者があり、売上より 1,147,958 円を JOCS へ寄付した。使用済み切手も約 30 キロ集まつた。

（5）講師派遣プログラム

JOCS の活動や使用済み切手運動紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。2016 年度は以下の諸団体（29 団体）に講師を派遣した。

2016 年

5 月：青山学院初等部、浅草教会子どもの教会、清教学園

6 月：大阪天神橋ライオンズクラブ、近江兄弟社中学校

7 月：明治学院中学校、明治学院東村山高等学校、関西学院中学部、

近江兄弟社高等学校

8 月：大宮シオン・ルーテル教会

9 月：近畿地区無教会キリスト教集会、横浜共立学園中学高等学校、

10 月：青山学院初等部

11 月：聖隸クリリストファー大学

12 月：関西学院大学、旭市立飯岡中学校、戸山教会戸山幼稚園、

恵泉女学園中学・高等学校、同仁美登里幼稚園

2017 年

1 月：マナ愛児園、新松戸リバーバルチャーチ、日本自由キリスト教会、津久井キリスト栄光教会

2 月：東京羽田キリスト教会、佐原教会、成増高等看護学校

3 月：船橋エクレシア・キリスト教会、小山聖書キリスト教会、成増高等看護学校

（6）事務局見学受け入れ

JOCS の活動内容や使用済み切手運動について学ぶ機会を提供するため、中学生、高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れを行っている。今年度は、学校や教会など、計 12 団体の訪問があった。

＜東京事務局＞（8 団体 63 名）

盛岡市立下小路中学校、明治学院高等学校、いなべ市立藤原中学校、

アレセイア湘南高等学校、静岡市清水区赤十字奉仕団蒲原分団、香蘭女学校、

新宿区社会福祉協議会、青山学院高等部ボランティア部

＜関西事務局＞（4 団体 1 個人 24 名）

大阪産業大学、大阪オムロン株式会社、門田亜夕氏、大阪西ロータクト

3. 国内諸活動

(7) 視聴覚資料（DVD、写真パネル、切手紙芝居）

現在、JOCS における貸出可能な視聴覚資料は下記のとおりである。貸出可能な DVD においては、すべて YouTube のサイトに掲載し、ホームページからも視聴ができる。2016 年度の DVD の貸出依頼は 3 件であった。

<DVD/VHS>

- ・50 周年記念 DVD 「カシナマジャパン」 / 「心をひらいて」 (DVD のみ)
- ・アジアの呼び声に応えて
- ・エイズと向き合う
- ・クメールの人々とともに
- ・使用済み切手でアジアに医療協力を
- ・日本のお友だちへ
- ・はるかなるネパールの村へ
- ・オカルドウンガ診療所にて
- ・世界の屋根のヒゲ・ドクター
- ・ノーレンの目が見えた
- ・ヒマラヤの結核キャラバン

<写真パネル>

- ・ワーカーの活動地
- ・「みんなで生きる」表紙

<ホームページからダウンロード>

- ・使用済み切手運動紙芝居

(8) 仙台市・名取市を訪ねる～絆をつなぐ旅～

参加者が被災地のことを思い、それぞれができる支援について考える機会を提供することを目的として仙台市・名取市を訪ねる旅を実施した。

日 程：2016 年 10 月 15 日（土）～10 月 16 日（日）

訪問地：宮城県仙台市、名取市

参加者：7 名（女性 6 名、男性 1 名）

内 容：東北教区被災者支援センター・エマオの活動報告、仙台市内・名取市内訪問、
日本基督教団名取教会日曜礼拝出席

成 果：参加者が、復興に向けてできることを具体的に考えるきっかけを提供することができた。

(9) JOCS のつどい

JOCS の活動を初めて知り、イベントに参加してくださった方々の理解と賛同を得る、

また、既存の支援者の方々には感謝の気持ちを伝え、活動報告の機会とすることを目的として JOCS のつどいを実施した。

1) 朗読と音楽のつどいーかけがえのないいのちと平和

日 時：2016 年 11 月 23 日（水・祝）

場 所：日本基督教団信濃町教会

来場者：97 名（うち新規 40 名）

プログラム内容：畠野研太郎会長による JOCS の理念、活動の紹介とゲスト「朗読三昧」による朗読と音楽

成 果：当日の入会が 1 名あった。当日実施したアンケートによると、イベントの内容については「JOCS の活動紹介と朗読・音楽との一体感があり感動した」という声が多く好評であった。しかし、今後支援依頼を送ることのできる個人情報を記入してくれた方は 7 名である。チラシの内容改善、配布先の拡大など、多くの潜在的支援者に参加してもらえる方策の立案に課題が残った。

2) 関西 JOCS のつどい（大阪）

当初、2017 年 2 月に予定していた「関西 JOCS のつどい 2017」は、ワーカーの一時帰国時期、支援者の協力の状況などから、5 月に延期することとなった。

（10）チャリティ映画会

平和をテーマにした映画の内容に関心がある人に JOCS のことを知ってもらい、新規の支援者を増やすことを目的として映画会を開催した。

日 時：2017 年 3 月 6 日（月）

場 所：亀戸文化センター カメリアホール

上映作品：日本映画「ソ満国境 15 歳の夏」

来場者： 昼の部 157 名

夜の部 63 名

内 容：JOCS 活動紹介のために、本編上映前に 50 周年記念 DVD「カシナマジュパン」を上映した。上映後には、事務局スタッフが保健医療協力活動をご支援くださるようお願いした。本編終了後、当日ボランティアの方々と共に、会場出口にて海外保健医療協力事業のための募金の呼びかけを行った。

（11）プレスリリース強化

JOCS のつどい、映画会の開催時に、各新聞社・クリスチャン系雑誌に掲載依頼を行った。

3. 国内諸活動

(12) ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」「カンボジア市民フォーラム」に加入している。JANIC では、JANIC 会員の集いへの参加、各種セミナーへの参加、組織運営能力強化のためのアンケート協力などを行った。カンボジア市民フォーラムでは、世話人として運営の一端を担った。JANNET では、担当職員が監事として運営に携わった。

また、国際協力を主たる事業とする公益法人のネットワーク「公益法人に関する NGO 連絡会」(JANIC 正会員ワーキンググループ) のメンバーとして、3カ月に1回、ガバナンス強化のための情報交換会に参加した。

「NGO 非戦ネット」(非戦の平和、共生を目指す NGO の緩やかなネットワーク) の活動に賛同して呼びかけ人を務めている。2016 年度も他の NGO とともに非戦の声を上げた。

(13) オープンサタディ

より多くの方にご支援・ご協力いただく機会を増やすことを目的として、毎月第4土曜日に関西事務局を開けることにした。それ伴い、2016 年度 7 月より大阪 JOCS 委員会の協力を得て「オープンサタディ」という名前で気軽な勉強会を開催した。テーマは幅広く、JOCS に関わりのある医療・福祉・健康・国際協力など、毎回多彩な講師を迎えて行った。

第1回

日 時：2016 年 7 月 23 日（土）13 時～15 時

参加者：12 名（会員以外：3 名）

講 師：川島泉氏（保健師）

テマ：からだと私をつなげよう。

内 容：人間のからだの仕組みを知り、自分自身の身体を知って、足から健康を考える。

第2回

日 時：2016 年 8 月 27 日（土）14 時～16 時

参加者：16 名（会員以外：7 名）

講 師：立山恭子元カンボジア派遣ワーカー（保健師、助産師）

テマ：東パキスタンからバングラデシュへ—1965 年～バングラデシュ独立直後まで
私の経験から—

内 容：東パキスタンの歴史から今のバングラデシュを考える。

第3回

日 時：2016 年 9 月 24 日（土）14 時～16 時 30 分

参加者：11名（会員以外：3名）

講 師：畠野研太郎元バングラデシュ派遣ワーカー（JOCS 会長、医師）

テーマ：訊ね合おう、話し合おう（Part1）－病気？歴史？生き方・信仰？話し合いたい
こと何でも歓迎！－

内 容：参加者と一緒にテーマを決めて、そのことについて質問や意見を出し合う。

第4回

日 時：2016年10月22日（土）14時～16時20分

参加者：9名（会員以外：0名）

講 師：久保礼子氏（JOCS 理事、言語聴覚士）

テーマ：障がいとリハビリテーション－話すこと・食べること・生活すること－

内 容：車いすの起源やリハビリテーションのこと、障がいについて共に考える。

第5回

日 時：2016年11月26日（土）14時～15時50分

場 所：大阪聖パウロ教会礼拝堂・集会室

参加者：19名（会員以外：7名）

講 師：乾眞理子元バングラデシュ短期派遣ワーカー（医師）

テーマ：テゼの歌と共に～祈りのひととき

内 容：テゼの礼拝を体験しつつ、バングラデシュでのJOCSのワーカーの活動を知る。

第6回

日 時：2016年12月24日（土）14時～16時

参加者：13名（会員以外：4名）

お 話：林正樹牧師（大阪聖パウロ教会）

テーマ：JOCSでクリスマスイヴをご一緒に

内 容：クリスマスの意外なエピソードを聴きつつ、讃美歌を共に歌い、クリスマスを祝う。

第7回

日 時：2017年1月28日（土）14時～16時

参加者：21名（会員以外：9名）

講 師：上床益代氏（看護師）

テーマ：生きること、死ぬこと－看護師としての経験から－

内 容：「死を考えることは生を考えること」講師の経験を通して、生と死について考える機会を得る。

第8回

日 時：2017年2月25日（土）14時～16時

参加者：14名（会員以外：4名）

講 師：寺田幸子氏（保健師、ケースワーカー）

テマ：最低限の生活保障－生活保護をもらうということ－

内 容：ケースワーカーの活動内容を通して、生活保護の実態を知る。

第9回

日 時：2017年3月25日（土）14時～16時

参加者：15名（会員以外：3名）

講 師：諏訪恵子元カンボジア派遣ワーカー（看護師、ホスピタル・プレイ・スペシャリスト）

テマ：遊びの力・障がいのある子どもや医療処置を受ける子どもに対する遊びの役割-

内 容：粘土を実際に触りながら、遊びが子どもにとってどれ程大事で、それが癒しの力になるかを体験を通して学ぶ。

[3-4]マーケティング

会員数は、過去長らく年間の純減 200名が続いていた。「5ヵ年計画 2013」において、2017年度末までに退会者数と入会者数を均衡させることを目標としている。2016年度の目標は、275名入会、300名以内退会、純減 25名以内であった。

2014年度に広報の専門家の指導、助言を得て理事、監事、スタッフ全員が行ったブレーディングにおいて、アプローチする対象をクリスチャンおよびキリスト教共感層とすることを決定した。特に、教会に通っている50代～60代の女性および定年後の60代の男性、キリスト教主義学校関係者、友の会会員を重点対象としている。2016年度は、イベントでの入会呼びかけに加えて、事務局スタッフが教会を訪問し活動報告と支援依頼を行うことを始めた。年次報告書や募金趣意書には、共に生きる現地の人々の物語を掲載した。既存支援者に対しては、細やかなコミュニケーションを行うことで、より信頼していただける団体となることを目指した。

結果、入会者は目標に及ばず117名であったが、継続率向上により退会は218名、純減101名となった。

（1）会報誌「みんなで生きる」の企画・編集

発行回数：年7回（偶数月10日、子ども号11月10日発行）

発行部数：通常号 : 6,500部

6・7月号（簡易版） : 16,500部

子ども号 : 8,500部

体裁	: A4 版。通常号および子ども号 16 ページ、6・7 月号 4 ページ
送付先	: 会員と年額 1 万円以上の寄付者など。ただし 6・7 月号は、年次報告書とともに全支援者に送付した。
特集記事 : 4・5 月号	たくさんの国際協力のカタチ
6・7 月号	(簡易版のため特集記事はなし)
8・9 月号	岩本直美バングラデシュワーカー活動報告
10・11 月号	山内章子バングラデシュワーカー第 3 期活動
子ども号	JOCS 活動の報告
12・1 月号	JOCS につながる人たちからのクリスマスマッセージ
2・3 月号	タンザニア協働プロジェクト (統計を活用した地域医療の改善に向けて)

その他、会長巻頭言、ワーカーからの手紙、切手部通信、JOCS と私、地区 JOCS から、新入会者報告、協働プロジェクト進捗報告、奨学生紹介、国内活動の案内や報告を掲載した。

毎号、都道府県順に 100 人の会員を抽出し、往復はがきでアンケートを送付し、毎回 30 通前後の回答を得た。得た回答は誌面づくりに役立てた。また随時会員の声として誌面で紹介した。

編集、校正ボランティア : 編集、校正にあたっては、以下の方々に協力をいただいた。

柏木牧子氏 (イラスト)、

黒川瞳氏、古中大輔氏、那須野幸子氏 (編集、校正)

また、子ども号編集にあたって、大工原良人さん (小学 4 年生)、高橋彩恵さん (小学 5 年生) のお二人に協力をいただいた。

(2) 年次報告書

2015 年度 (2015 年 4 月～2016 年 3 月) の海外事業、国内活動、会計報告などをまとめた年次報告書を発行した。写真を多用し、JOCS の活動内容と成果をわかりやすく伝えることを目的とした。特に、現地の人の声や日本国内の支援者の声を多く掲載した。

会報誌 6・7 月号と夏期募金趣意書とともに発送した。

発行回数 : 年 1 回 (6 月 10 日発行)

発行部数 : 16,500 部。うち 11,549 部を発送した。

体裁 : A4 版。20 ページ。

送付先 : 全支援者

評価 : アンケートを同封し、263 件の回答を得た (回答率 2.3 %)。9 割が「読みやすい」と回答し、また 8 割が「関心に応える内容だった」と回答した。印象に残った内容としては、JOCS の海外での 3 事業 (ワーカー派遣、奨学金事

3. 国内諸活動

業、協働プロジェクト）のほかに、「会長あいさつ」、「使用済み切手運動」が多く挙げられた。

（3）ホームページ

ホームページの刷新に向けて、古い情報が掲載されているページを見直し、各ページの情報統一をはかった。7月には会報 PDF 購読者を対象に、現ホームページの満足度や情報の探しやすさ、期待することなどを問う Web アンケートを実施した。現ホームページの内容に満足している利用者が多かったが、活動に関する情報の更新頻度を上げることが期待されていることがわかった。国内イベントの他、協働プロジェクトの進捗状況を更新し、Facebook や Twitter などからもリンクを配信するようにするなど改善を図ったが、海外からのリアルタイムな保健医療協力活動に関する更新頻度を高めるための具体的な施策を見つけることが課題として残った。

（4）雑誌広告

キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』の7月号と1月号に1ページ広告を掲載した。7月号では、タンザニアの奨学生を取り上げ、その生い立ちと JOCS 奨学金を得た過程、現在の仕事について紹介した。1月号では、タンザニアの弓野綾ワーカーの働きと、弓野ワーカーと共に活動する奨学生の姿を紹介した。

今年度、雑誌広告をきっかけに、2名が入会した。

（5）会員マーケティング

2016年4月から7月までの岩本直美ワーカーの活動報告会では、7名の新入会、6名の新規寄付者を得た。ワーカー報告会による新規支援者獲得目標数50名に対して13名にとどまり、目標数に達することができなかった。支援をお願いする時のメッセージを工夫することが必要である。

2017年1月から、関東圏を中心に職員による活動報告会を7回実施し、3月までに3名の新入会、3名の新規寄付者を得た。次年度も引き続き、職員による活動報告会を実施することとした。

過去5年以内に新規でご寄付をくださった方々466名に対して、年次報告書、夏期募金趣意書を送る際、入会案内兼銀行自動引落フォームを同封した。その中で、過去3年以内にご寄付をくださった方々の半数に、手書きのメッセージを添えた。その結果、12名の新入会を得ることができた。冬期募金では、半年間に新規でご寄付をくださった方々、128名に手書きのメッセージを添えた入会案内を同封し、2名の新入会を得ることができた。

そのほか、東京、関西で実施したイベントの際の会員募集 PR により、9名の新入会があつた。

(6) 募金

今年度の募金協力件数は以下のとおりである。

2016 年度	依頼件数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	11,425 件	2,238 件	19.6%	18,473,201 円
冬期募金	11,416 件	5,261 件	46.1%	51,000,958 円
その他の募金	—	—	—	8,321,550 円
国別指定	—	—	—	133,355 円
奨学金指定	—	—	—	4,067,681 円
海外保健医療協力指定	—	—	—	11,504,117 円
災害救援指定	—	—	—	35,000 円
海外派遣事業指定	—	—	—	3,845,517 円
総計	—	—	—	97,381,379 円

(7) 遺贈マーケティング

遺贈や相続財産の寄付に関心のある方向けにパンフレットを作成し、問い合わせのあった方に配布した。ホームページに遺贈に関する案内を掲載した。

「公益法人に関する NGO 連絡会遺贈分科会」のメンバー7団体で、情報交換と勉強会を行った。

(8) 助成金

Panasonic の「NPO サポート ファンド for アフリカ 2017」に申請を行い、アフリカ分野での広報事業のための助成金を獲得した。共感を呼ぶ動画を作成するための手法を学び、動画を活用して、新規支援者獲得のための広報基盤強化を行うためである。

助成によって、株式会社エクリプス 大宮直明氏 (JOCS50 周年記念 DVD 制作ディレクター) からの指導を受け、動画撮影の準備とシナリオ作成の企画を行った。3 月には、事務局スタッフが、タンザニアで実施している 3 事業（ワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクト）およびその相互連携による成果をアピールするための動画の撮影やインタビューを行った。2017 年度、撮影した動画を編集し、完成した動画を用いて報告会を行う予定である。

4. 運営体制

公益法人として法律で定められている社員総会および理事会を以下のとおり開催した。また、透明性の高い組織運営を行うため、各種委員会活動、評価活動を行った。

[4-1] 第55回定時社員総会

2016年6月11日（土）午後1時30分より、東京都新宿区信濃町教会にて、46名の社員の出席と182通の委任状、28通の書面表決を以って開催した。議事に先立ち、バングラデシュ派遣岩本直美ワーカー活動報告、続いて、植松功理事から奨励がなされた。その後、2015年度事業報告が行われ、議事である2015年度決算報告、理事および監事の選任が承認・決議された。また議案審議の終了後には、2016年度事業計画、収支予算報告について説明がなされた。

[4-2] 理事会

定例理事会は、以下の日程、場所で開催した。

2016年 4月 23日	東京事務局
6月 11日	信濃町教会
7月 2日	東京事務局
7月 29日 (臨時)	東京事務局
9月 10日	東京事務局
11月 19日	貸し会議室 Three Eight Nine MITAKA4階 Office B
2017年 1月 21日	東京事務局
3月 11日	東京事務局

2016年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畠野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、小宅泰郎、久保礼子

土居弘幸、名取智子、榛木恵子、東岡牧、森田隆

監事：倉辻忠俊、渡部芳彦

[4-3] 委員会

(1) 関西地区活動委員会

委員長：船戸正久 副委員長：彼谷廣子

委員：宇山進、大谷透、小野勝、加輪上敏彦、久保礼子、島田恒、杉村(諏訪)恵子、中村満子、和田浩

渋江理香（事務局）

- 1) 隔月に開催している委員会では、各地区 JOCS の活動報告、募金報告、関西 JOCS のつどいに関する協議・反省などを行った。また本期より委員会規約が変更となり、今までの委員数が確保できなくなることによる弊害が考えられ、話し合いの結果、理事会に対し委員増員の要望を出し、新たに 2 名を加え 12 名で委員会運営を行っていくことになった。
- 2) 「関西 JOCS2017」の開催のための話し合いを行った。詳細は[3-3]国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動全般（9）を参照のこと。

(2) 奨学生委員会

委員長：小宅泰郎 副委員長：柳澤理子

委 員：澤田和美、杉村（諏訪）恵子、細谷たき子、宮崎雅

服部由起、松浦由佳子（事務局）

1) 2016 年度奨学生選考

委員会での協議の結果、5 カ国から申請のあった 60 名のうち、16 件を採用した。採用結果について理事会に答申を行い、全員承認された。

対象国	2016 年度	
	申請者	支給決定者
インドネシア	9	1
ネパール	10	4
バングラデシュ	2	2
ウガンダ	27	5
タンザニア	12	4
合 計	60	16

新たに 16 名の奨学生が承認された結果、2016 年度はインド 1 名、インドネシア 4 名、ネパール 14 名、バングラデシュ 3 名、ウガンダ 21 名、タンザニア 10 名の合計 57 名に奨学生の支援を行った。詳細は 2016 年度奨学生一覧（10~12 ページ）を参照。

2) 奨学生規程案に関して理事会に答申を行った。制定された奨学生規程に基づき、今後事務局で奨学生事業実施ガイドラインの作成・修正を進め、利用していく。

(3) 財務委員会

委員長：榛木恵子 副委員長：羽山信輝

委 員：黒川純

大久保奈緒、小池宏美（事務局）

例年と同じ様に、委員長は毎月、委員は四半期ごとに事務局から財務状況の報告を受

4. 運営体制

け、財政運営が適正に行われていることを確認した。

9月の東京事務局移転に伴う追加工事が必要となり、新たに費用が発生したため、補正予算を協議、承認し、会長に提出した。年度後半には決算見込みを確認の上、事務局が立案した2017年度予算案を調整し、会長に提出した。

2011年度から行っている高額のご寄付をくださった方へのアンケートを継続し、支援者の動向やJOCSに求めるもの伺って、委員会で共有した。

かねてから懸案であったJOCSの遺贈パンフレットが完成した。今後委員会としても、遺贈担当理事と連携しながら、活用を考えていくことを確認した。

[4-4] 事務局

2016年度は東京事務局では職員1名を採用し、また1名が4月に育児休職から復職し、職員1名が3月をもって退職した。関西事務局では職員1名が3月をもって退職した。

9月には東京の事務所を移転した。

2016年度も多くの方々の協力を得て、事業を滞りなく進めることができた。

事務局長・海外事業部長 森田隆

事務局次長・マーケティング部長・管理部長 名取智子

東京事務局 大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、服部由起、
松浦由佳子、森田真実子、山中信

清田量兵（インターン、11月～3月）

関西事務局 渋江理香、西村卓

5. 社員会員・一般会員の現状報告

2017年3月31日現在

社員会員	331名
一般会員	3,685名
合計	4,016名

2016年度中の社員会員、一般会員の異動

1. 社員会員	
(1) 新しく社員会員となられた方	10名
(2) 社員会員を辞し、一般会員となられた方	5名
(3) 退会された方	6名
2. 一般会員	
(1) 新たに入会された方	110名
(2) 退会された方	212名

6. 2016年度の主な動き

4月

- 1日 松浦由佳子氏入局
- 2日 京都 JOCS チャリティーウォーカソン（鴨川河川敷）
- 25日 森田真実子職員、育児休職より復職
- 29-5月 1日 スタンプショウに出展（都立産業貿易センター台東館）

5月

- 11日-25日 森田隆事務局長、協働プロジェクト終了時評価のためタンザニア出張
協働プロジェクト調整のためケニア出張
- 服部由起職員、協働プロジェクト終了時評価のためタンザニア出張
- 14日 関西 JOCS バザー（大阪聖パウロ教会）

6月

- 4日 国際保健医療勉強会（東京事務局）
- 4日-5日 スタンプショウに出展（広島県立広島産業会館）

6. 2016 年度の主な動き

11 日 第 55 回定時社員総会（東京 信濃町教会）

15 日－26 日 森田隆事務局長、協働プロジェクトモニタリングのためカンボジア出張
新規協力団体調査のためタイ出張

25 日 京都 JOCS のつどい（京都府国際センター）

26 日 芦屋 JOCS のつどい（カトリック芦屋教会）

7月

21 日 山内章子ワーカー一時帰国、第 3 期中間レビュー実施

23 日 オープンサタデイ（関西事務局）

30 日 京都 JOCS チャリティコンサート（京都府民ホールアルティ）

8月

1 日 岩本直美ワーカー、バングラデシュへ出発

27 日 オープンサタデイ（関西事務局）

9月

3 日－5 日 東京事務局移転

10 日－18 日 タンザニアスタディツアー

19 日 山内章子ワーカー、バングラデシュへ出発

24 日 オープンサタデイ（関西事務局）

10月

1 日－2 日 グローバルフェスタ JAPAN に出展（お台場・センタープロムナード公園）

4 日－13 日 森田隆事務局長、松浦由佳子職員、協働プロジェクトモニタリングのため
ケニア出張

15 日－16 日 仙台市・名取市を訪ねる～絆をつなぐ旅～

15 日－16 日 スタンプショウに出展（イオンモール高知）

22 日 オープンサタデイ（関西事務局）

29 日 国際保健医療勉強会（東京事務局）

大阪 JOCS カフェ（大阪聖パウロ教会）

11月

12 日 神戸 JOCS のつどい（神戸東部教会）

13 日 四国高知 JOCS のつどい（高知教会）

18 日 国際保健医療勉強会（東京事務局）

23 日 朗読と音楽のつどい－かけがえのないのちと平和（東京 信濃町教会）

26 日 オープンサタデイ（関西事務局）

12月

10 日 足利市民クリスマス（足利市民プラザ）

13 日 関西事務局ボランティアお疲れさま会

24 日 オープンサタデイ（関西事務局）

29-30 日 國際保健医療協力フィールドセミナー（横浜市中区 寿地区）

1月

7-18 日 森田隆事務局長、弓野綾ワーカー中間レビューのためタンザニア出張

27 日 國際保健医療勉強会（東京事務局）

28 日 オープンサタデイ（関西事務局）

2月

3 日 東京事務局ボランティア交流会

6-23 日 森田隆事務局長、協働プロジェクトモニタリングのためカンボジア出張
ワーカーケアのためバングラデシュ出張

6-17 日 松浦由佳子職員、協働プロジェクトモニタリングのためカンボジア出張

11 日 ひょうご・こうべワールドミーツ for YOUTH（神戸国際展示場）に出演

25 日 オープンサタデイ（関西事務局）

3月

6 日 チャリティ映画会「ソ満国境 15 歳の夏」（カメリアホール）

10 日 大久保奈緒職員退職

13 日-25 日 高橋淳子職員・服部由起職員、活動紹介動画撮影のためタンザニア出張

20 日-31 日 松浦由佳子職員、奨学生モニタリングのためウガンダ出張

25 日 オープンサタデイ（関西事務局）

31 日 西村卓職員退職